

2024 年度第 3 回豊岡市環境審議会 会議録

日 時：2025 年 2 月 7 日（金）14 時 00 分～16 時 30 分

会 場：豊岡市役所本庁舎 3 階 庁議室

出席した委員：山室敦嗣（会長）、西垣由佳子（副会長）、青柳順子、安藤有公子、
川見絵里香、木築基弘、島崎卓也、田原美穂、野世英子、増原直樹、
水嶋弘三、村田美津子

欠席した委員：飯田勇太郎、黒田和真、山下正明

事 務 局：コウノトリ共生課 課長 宮垣均、課長補佐 谷口久敏

同 脱炭素推進室 室長 井上浩二、主任 大逸優人、主事 阿部梨子

1 開 会

- ・ 会議の公開、傍聴の許可、会議録の公表を確認

2 あいさつ

- ・ 山室会長あいさつ

3 説 明

（1）2023 年度環境報告書に関する審議

【会 長】第 2 部「目標とする姿」への取組み状況（案）について事務局から説明してください。

【事務局】2023 年度環境報告書の第 2 部について、第 2 回環境審議会で意見をいただき修正した箇所について説明する。

目標像①については、9 ページ「（4）木質バイオマス機器の利用」の内容を「2014 年以降、公共施設への木質バイオマス利用機器の設置は行っていない。ペレットストーブを計画的に撤去し、薪ストーブに順次切り替え、脱炭素と市内産木材利用の普及を図ります」と記載した。

目標像②については、以前の協議の中で「クマの出没回数が増えているため、追記してはどうか」「シカによる交通事故の被害が急増しているが、公表できるデータは無いか」との意見と質問をいただいた。クマの出没回数について、豊岡市の HP では「豊岡市クマ目撃マップ」で目撃されたクマの位置が公開されており、農林水産課では年度ごとのクマの目撃情報を把握している。しかし、その数字は、「同じクマが複数回目撃されている」「クマに対する興味や警戒が高いために目撃数が増える」といった要素を含むため、その数字を公表するのは誤解を招くと判断し、掲載しないこととした。

シカによる交通事故の件数も、農林水産課が把握しているのは交通事故で怪我をして動けないシカを処理した件数のみである。この件数はシカの生存数でも事故件数でもないため、公表できるデータは無いと判断した。

また、13 ページ「2 2023 年度評価」について、マイナス評価を 1 つ削除したため、評価レベルを「この調子でがんばろう」に 1 つ上げた。

目標像③については、17 ページ「トピックス」で、学校給食で提供する数量であることが分かりやすい記述に修正した。

目標像④については、19 ページ「川の体験活動実施率（小学校）」グラフで、統廃合による学校数の変化から、学校数ではなく全学校の何割かという％表示にした。

また、20 ページ「活動例」では、清掃場所と活動主体を追記した。

目標像⑦については、27 ページ「生きものとふれあう体験学習実施小学校」グラフを％表示に変更した。

また、28 ページ「2023 年度の研究」の内容欄には、研究内容を示す記述に変更した。

目標像⑧については、32 ページに生ごみを乾燥させることの大切さについて追記した。

また、同ページの「トピックス」の内容を変更した。

目標像⑩については、37 ページに「コウノトリの舞」に関する説明を追記した。

また、38 ページ「コウノトリ文化館来場者数（単年）」グラフについては、「視察者数」から「来場者数」を掲載するよう変更した。

また、39 ページでは、コウノトリの目撃情報を最新の状態に修正し、同ページ「トピックス」の内容も変更した。

また、40 ページ「2 2023 年度評価」では、「集団観光から個人での環境学習」といった内容の変化に記述を修正した。

【会 長】第 2 回環境審議会を受けて修正された点について、不明な点や指摘があればご意見ください。

【委 員】目標像② 11 ページについて、クマの出没回数が公表できないとの説明があったが、今後も公表することができないか。それとも来年度は何らかの形で公表することが可能か教えてほしい。クマへの興味や警戒心が高まっている状況で公表しないのは不自然であると感じる。

【事務局】公表に関しては、農林水産課と協議の上記載している。今後啓発や注意喚起す

ることが可能なデータがあれば農林水産課と協議の上公表したい。

【会 長】目標像① 9 ページ「(4) 木質バイオマス機器の利用」について。「耐用年数を経過しているペレットストーブを計画的に撤去し薪ストーブに順次切り替えていく」との記載があるが、既に実施されているのか。

【事務局】農林水産課では耐用年数が経過した機器をどこから優先的に撤去するか検討している。具体的にいつから撤去するかは把握していない。

【事務局】目標像⑨ 35 ページの大規模太陽光発電に関する記述について、「売電収入は太陽光発電システム設置補助、木質バイオマス利用機器設置補助の費用等に充てています」と記載しているが、2023 年度から森林環境譲与税が木質バイオマス利用機器設置補助に充当しているため削除する。

【会 長】続いて、第 6 部 2023 年度の環境に関する取組みについて事務局から説明してください。

【事務局】2023 年度環境報告書の第 6 部について、第 2 回環境審議会から修正した箇所について説明する。

目標像①については、84 ページに新規として、分収造林に関する問題を記載した。継続として、木質バイオマスの利用と自伐型林業の担い手問題、放棄竹林の問題を記載した。

目標像②については、85 ページに継続として、有害鳥獣の処理を課題とした有効活用を求める意見を記載した。

目標像③については、85 ページに継続として、更なる耕作放棄地対策を求める意見を記載した。

目標像⑤については、86 ページに新規として、小さな自然再生活動支援助成事業の補助額の増額に関する意見を記載した。継続としては、コウノトリの全国への展開状況を最新のものに修正した。

また、87 ページに紙面やデジタル情報だけでなく、標本や剥製など、実物の確認記録の重要性、それらを収蔵保管する専門施設の必要性を追記した。

目標像⑥については、88 ページに継続として、市内外の人々が協力して伝統行事や文化を知り、伝統を守りながら、新しい伝統が作られることを期待すると記載した。

目標像⑦については、88 ページに新規として、子どもの年齢に合わせながら自然について知る機会の創出を記載した。継続としては、豊岡出身の子どもたち

が豊岡の良さを発信する際の機会や支援の必要性について記載した。

目標像⑨については、89 ページに新規として、豊岡市地球温暖化対策実行計画を推進して、脱炭素目標の実現に関する記載を追記した。継続としては、再生可能エネルギー導入の際に環境負荷や景観配慮の必要性について記載した。

目標像⑩については、90 ページに新規として、サステナブルツーリズムの推進や環境経済認定事業者が成果を発表する場を設けるなど、更なる周知の必要性について記載した。継続としては、環境経済認定事業に認定されたメリットとして、周知機会創出の後押しといった支援の必要性を記載した。

【会 長】第2回環境審議会を受けて修正した点について、補足や修正等があればご意見ください。

【委 員】目標像⑩ 90 ページについて、クマやシカの問題について記載されているが、段階を踏んで丁寧に記載してはどうか。例えば「クマやシカなどの獣害が、自然環境だけでなく、生活環境や、経済活動にも影響を与えています。多様な生きものと共生しながら、安心安全な日常生活や産業を守るための研究や対策を始めることが必要です。そのためには幅広い知識と情報を集め、実践するよう努めることを期待します。」と記載してはどうか。

また、目標像①では「放棄竹林等の増加により、里山が荒廃しています。」と言い切っているが、第2部の評価と齟齬が生じるのではないかと感じる。

【事務局】目標像⑩については、ご指摘を踏まえ事務局で案を作り、会長・副会長と相談して内容を確定する。

また、目標像①については、内容を精査し、修正が必要であれば対応する。

【会 長】第2部については、審議を終わる。

2025年3月3日（月）に市長報告を予定している。市長報告では第6部を中心に報告する。市長に伝えてほしい内容があれば教えてほしい。

【委 員】目標像⑤で、「コウノトリは現在、全国的に増加しています。これまでの野生復帰の取組みが挙げた成果を市民全員で再確認する一方、少数を保護し共生していくという観点から、次なる共生のステップに移るイメージの共有が求められます。」を伝えてほしい。次なる共生のステップを始めた方がいいということをしきりと伝えるべきではないかと考える。

【委 員】豊岡はコウノトリ野生復帰で注目されているが、次の展開も注目されているこ

とを伝えてほしい。

【会 長】クマは多くの方が心配されているので、強く市長へ伝える。

【委 員】目標像⑦で、子どもに関する目標が記載されているが、この目標に関わらず、子どもたちは次の世代を担う大事な人材である。目標像⑦では自然のことについて強調されているが、自然以外にも文化的なこと等、未来の世代に繋がることを市長に伝えてほしい。

【委 員】目標像③で、学校給食のことに触れているが、無農薬のコウノトリ育むお米を学校給食に取り入れるのであれば、農家がコウノトリ育む農法に適する品種でつくれるようにしてほしい。また、市が補助金を出して栽培したお米の買取価格を上げてほしい。他の自治体では、学校給食のご飯を全て無農薬米で提供しているところがある。豊岡市でも実践してほしいので、市長に伝えてほしい。

【事務局】現在、学校給食ではコウノトリ育む農法で栽培された減農薬米を提供している。減農薬米を提供する場合に関しても、慣行栽培米とコウノトリ育むお米では価格差があるため、市が補助している。他の地域と違う点は、コウノトリ育むお米を学校給食で提供するにあたり、保護者・教育・環境・農業といった異なる立場から多面的に予算を出しているということ。このことから、すぐに委員の要望に応えるには難しく、段階を踏みながらやっていく必要があると考えている。品種については、農家の意見を受けて課題を認識し政策に反映するため、担当課へ伝える。

【会 長】第6部については、審議を終わる。

続いて、今年度から環境審議会の部会として生物多様性推進部会が発足されたので、事務局から第1回生物多様性推進部会を報告してください。

【事務局】環境審議会の生物多様性推進部会は、生物多様性地域戦略の短期目標Ⅲを達成するため、短期戦略の取組み状況について効果検証する組織である。部会の役割は、取組みの進捗状況把握と評価、今後の取組み方針についての提案、個別に検討すべき課題の検討、ワーキンググループの設置、環境審議会への報告が含まれている。

生物多様性推進部会の提言について報告する。

「作戦①：「まずは知る」作戦！」については、コウノトリ共生課にある啓発パンフレットやパンフレットの貸し出しを広く進めて既存の啓発用パネルやパ

ソフレットの効果的な活用を進めるという提言があった。

また、学校給食時の校内放送で生物多様性に関する内容を放送しながら啓発するという提言もあった。

地域の生きものに詳しく解説できる人材を認定することで生きものに興味を持つ子どもたちを増やす先導的役割を期待する「生きもの博士」の認定については、認定する組織や方法などを検討するようにという提言があった。

「作戦②：「行動に移す」作戦！」については、小さな自然再生活動支援、助成事業の活用件数を増やすために、活動の複数回補助を検討し、事例を整理して公開することで、補助対象になる活動を判断する参考にするようにという提言があった。

「作戦③：「基盤を守る」作戦！」については、「市民参加型の漁礁設置作業」など、漁業協同組合と連携して市民参加型の取組みを検討するようにという提言があった。

また、民間団体が活動する際の財源として、環境省の「令和里海づくりモデル事業」等、有効な補助金の情報を紹介して支援するというような提言があった。

オーガニックビレッジの取組みを活用した地元産農作物の利用を推進するというような提言があった。

「作戦④：「つながる・つなげる」作戦！」については、生物多様性保全活動の具体的な活動を紹介し、新たな参加者の取り組みや他地域との交流を増やすようにという提言があった。

また、インバウンド観光客向けのプロモーションを強化し、コウノトリ文化館を通じて生物多様性を取り組む豊岡の魅力を発信するようにという提言があった。

「作戦⑤：「効果を高める」作戦！」については、現在、生物多様性推進部会は年1回の開催だが、2025年度から年2回の開催とするようにという提言があった。

また、豊岡市外来種対策行動計画を今年度中に策定し、外来種対策の取組みを進める。

以上の内容が、生物多様性を推進する上で有効と協議されたので報告する。

【会 長】生物多様性推進部会の報告内容に関して、ご意見ください。

【委 員】生物多様性推進部会の提言は、環境審議会で報告して終わりなのか。

【事務局】生物多様性推進部会の活動としては、ワーキンググループ等により独自の問題

解決の道筋を模索する予定ですが、提言に関しては環境審議会に報告して終わることとしている。

【会 長】 以上で生物多様性推進部会の報告の審議を終わる。
続いて脱炭素施策に関する審議について、事務局から説明してください。

【事務局】 豊岡市脱炭素施策の取組状況として、2024 年度脱炭素施策及び 2025 年度脱炭素施策（案）を説明

【会 長】 2024 年度の新規事業についてご意見ください。

【委 員】 バイオマスボイラー導入可能性調査について、バイオマスボイラー（チップボイラー）を導入する場合は、制度設計を十分に検討する必要がある。環境省の補助金を活用すれば採算がとれるものの、継続的に利用するには、ボイラーの寿命や木質チップの品質をどこまで担保できるかが課題になる。安易に導入することがないように注意してほしい。

【事務局】 バイオマスボイラー導入の課題は指摘のとおりと認識している。チップボイラー導入には、市内産木材の利用やチップ供給体制を一体的に整える必要があるため、仕組みを検討していきたい。

【会 長】 「公共施設等太陽光発電設備導入調査」や「バイオマスボイラー導入可能性調査」を踏まえて設備導入する予算は議会で審議されるか。

【事務局】 市の予算は議会の可決が必要になるため、議会で審議される。

【会 長】 導入する時期は、市で検討してから決まるということか。

【事務局】 どちらも設備導入が高額で国の補助事業等の活用が必要になるため、導入は補助事業等が採択されたタイミングになる。

【委 員】 「公共施設等太陽光発電設備導入調査」の概算事業費は、施設毎に現地調査して算出しているか。

【事務局】 施設毎に現地調査し、適正な設備容量で概算事業費を算出している。

【委 員】「公共施設等太陽光発電設備導入調査」の年間発電量は、施設の利用状況に基づいて算出しているか。

【事務局】施設毎の利用状況に基づいて算出していない。

【委 員】クーリングシェルターとクールスポットで担当課が違う理由を教えてください。

【事務局】クーリングシェルターは、健康被害・熱中症対策を目的にしているため、健康増進課が所管している。一方、クールスポットは省エネ、CO₂排出抑制を目的にしているため、コウノトリ共生課が所管している。目的が異なるため所管している課が違うが、連携して取組みを進めている。

【会 長】オンラインで出席している委員の意見を紹介する。

「バイオマスボイラーは、今考えられる課題だけでも持続可能性が低いように感じる。」とコメントがあるので、事務局はコメントを踏まえて検討してください。

【委 員】地球温暖化対策実行計画（区域施策編）改定からまもなく1年だが、順調に脱炭素施策が進んでいる。バイオマスボイラー導入の課題は、市内にチップ供給体制がないこと。多くの委員がバイオマスボイラーの持続可能性を問題視しているので、供給体制をしっかり作ってほしい。市内にチップ供給体制ができれば、市内の温浴施設などにチップボイラーを導入でき、脱炭素化やコスト削減につながる。

【事務局】チップ供給体制の必要性はご指摘のとおり。今年度、兵庫県が主体でバイオマス利活用を進めるため、県内市町を対象に「バイオマス部会」が開催された。今年1月には兵庫県が主体で県内市町、バイオマス事業者をメンバーとした「里山バイオマス活用コンソーシアム」を立ち上げられたので本市も参加している。バイオマス熱利用はCO₂排出削減効果が高いので、継続的に兵庫県と連携しながらチップ供給体制を含めたバイオマス利活用の検討を進める。

【委 員】公共施設の太陽光発電設備を点検することはすばらしい。色々な自治体を見ているが、点検できていない自治体が多い。点検すると故障が見つかると思うので、修繕予算もあわせて確保してほしい。

【事務局】点検した結果、パワコンが故障して太陽光発電が利用できていない施設があっ

たので、施設担当課へ修繕予算を確保してもらうように伝えている。

【委員】来年度計画されている「脱炭素アカデミー」もぜひやってほしい。個人的に環境カフェみたいなものやろうと考えていた。「脱炭素アカデミー」が開催される際は関わっていきたい。

【事務局】来年度「脱炭素アカデミー」開催を計画しているので、開催する際はご協力いただきたい。

【委員】脱炭素パンフレットは、授業の教材としても利用するのであれば、京都府が学年ごとに教材を作っているので参考にしてほしい。

【委員】コウノトリ育む農法は脱炭素に取り組めない事情がある。農業はトラクターやコンバインに化石燃料を使うし、田んぼに水を張ることでメタンガスが発生する。

【事務局】コウノトリ育む農法は、冬期湛水でメタンガスが発生するものの、化学肥料の不使用や冬期湛水終了後、春に落水し水田を乾かすことでメタンの追加的な発生を抑制している。また、2024年3月に農林水産省の「温室効果ガス削減見える化ラベル」で、減農薬は慣行農法と比べ32%削減、無農薬は23%削減になるため、温室効果ガス削減と生物多様性保全の両方で最高ランクの3つ星を獲得している。

【委員】有機農業に取り組む人が増えてきたせいか、コウノトリ育む農法が本当に生きものにとっていい農法なのか部会でも疑問視する声を聴くようになった。生物多様性の面からもコウノトリ育む農法を見直す時期に来ているのではないか。

【事務局】コウノトリ育む農法のあるべき姿を生産者、専門家、関係機関で議論して作り上げることが大事。

【委員】イベントでアンケートの景品としてノベルティを配布することがあるが、無理に渡すのではなく、必要なものがあれば持ち帰るという選択肢が必要。

【委員】NHK ラジオで放送している「子ども科学電話相談」のように、FM ジャングルで子どもが専門家に質問する番組ができないか。ラジオ番組だと多くの人が聞けるのでいいと思う。

【事務局】来年度は「脱炭素アカデミー」を開催予定。発展的にラジオ番組もということになれば検討する。

4 その他

- ・委員報酬の振込みについて

5 閉 会

- ・西垣副会長あいさつ